



— 人みな師なり — のコーナー

私の師を語るうえでどうしても忘れてはならない人がいますので今回はその人の事を書きます。その人は今は亡きゴールデンバイターの大原さんです。残念ながら、2年前にガンでこの世の人ではなくなりましたが、今でも私の心の中では生き生きと生きています。

生前、大原さんにはいつも3つのことで感心させられていました。

1つ目はいつも大原さんのまわりには笑い声と笑顔が絶えなかった事です。

2つ目はどんなにお決まりの慣れた仕事でも、新しいおどろきを発見して新鮮に仕事のできた事です。

3つ目は、どんなにきつい仕事でも早く終わらそうとしてあせることなく、「いま、この仕事」に集中してていねいに仕事に取り組む姿勢です。

大原さんと仕事をしていると、どんなに大変な仕事もいつも冗談のかけあいをしながら、いつの間にか仕事終了している、という感じでした。不思議な事にぜんぜん疲れないのです。テクア技研の「仙台四郎」(商売の神様)のような人だなあいつも思っていました。

あと何年たてば自分もそのような人物になれるのだろうと考えると、ずーと先のような気がします。...

大原さんは私の永遠の師です。

【羽原 篤史】

